景 気 ウ ォ ッ チ ャ ー 調 査

Economy Watchers Survey

令和６年９月調査結果

令和６年10月８日

内 閣 府 政 策 統 括 官
（経済財政分析担当）

今月の動き（2024年９月）

９月の現状判断ＤＩ（季節調整値）は、前月差1.2ポイント低下の47.8となった。

家計動向関連ＤＩは、飲食関連が上昇したものの、サービス関連等が低下したことから低下した。企業動向関連ＤＩは、製造業が上昇したことから上昇した。雇用関連ＤＩについては、上昇した。

９月の先行き判断ＤＩ（季節調整値）は、前月差0.6ポイント低下の49.7となった。

雇用関連ＤＩが上昇したものの、家計動向関連ＤＩ及び企業動向関連ＤＩが低下した。

なお、原数値でみると、現状判断ＤＩは前月差0.7ポイント低下の47.6となり、先行き判断ＤＩは前月に対し横ばいの49.2となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。」とまとめられる。

目　　次

調査の概要　2
利用上の注意　4
ＤＩの算出方法　4

調査結果　5

I．全国の動向　6
　１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）　6
　２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）　7
　（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）　8

II．各地域の動向　9
　１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）　9
　２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）　9
　（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）　10

III．景気判断理由の概要　11
（参考）景気の現状水準判断ＤＩ　25

調査の概要

１．調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

２．調査の範囲

(1)　対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、甲信越、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の12地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。

地域		都道府県
北海道		北海道
東北		青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東	北関東	茨城、栃木、群馬
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越		新潟、山梨、長野
東海		静岡、岐阜、愛知、三重
北陸		富山、石川、福井
近畿		滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国		鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国		徳島、香川、愛媛、高知
九州		福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄		沖縄
全国		上記の計

平成12年１月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の５地域。
平成12年２月調査から９月調査までの対象地域は、これら５地域に関東を加えた６地域。
平成28年４月調査より、南関東のうち東京都分の別掲を開始。
平成28年10月調査より、正式系列の「東北（新潟含む)」、「北関東（山梨、長野含む)」に加えて、「甲信越」(新潟、山梨、長野)、「東北（新潟除く)」、「北関東（山梨、長野除く)」を参考掲載。
平成29年10月調査より、現行の地域区分を正式系列として実施。

(2)　調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、「III．景気ウォッチャー（調査客体）の地域別・分野別構成（34頁)」を参照のこと。

３．調査事項

(1)　景気の現状に対する判断（方向性）
(2)　（1）の理由
(3)　（2）の追加説明及び具体的状況の説明
(4)　景気の先行きに対する判断（方向性）
(5)　（4）の理由
(参考)　景気の現状に対する判断（水準）

４．調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。

５．調査機関及び系統

本調査業務は、内閣府が主管し、下記の「取りまとめ調査機関」に委託して実施している。各調査対象地域については、地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」が担当しており、「取りまとめ調査機関」において地域ごとの調査結果を集計・分析している。

（取りまとめ調査機関）		三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
（地域別調査機関）	北海道	株式会社　北海道二十一世紀総合研究所
	東　北	公益財団法人　東北活性化研究センター
	北関東	株式会社　日本経済研究所
	南関東	株式会社　日本経済研究所
	甲信越	株式会社　日本経済研究所
	東　海	三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
	北　陸	一般財団法人　北陸経済研究所
	近　畿	りそな総合研究所　株式会社
	中　国	公益財団法人　中国地域創造研究センター
	四　国	四国経済連合会
	九　州	公益財団法人　九州経済調査協会
	沖　縄	一般財団法人　南西地域産業活性化センター

６．有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130 人	110 人	84.6%	北陸	100 人	89 人	89.0%
東北	189 人	172 人	91.0%	近畿	290 人	252 人	86.9%
北関東	129 人	112 人	86.8%	中国	170 人	163 人	95.9%
南関東	330 人	313 人	94.8%	四国	110 人	88 人	80.0%
東京都	165 人	157 人	95.2%	九州	210 人	183 人	87.1%
甲信越	92 人	85 人	92.4%	沖縄	50 人	37 人	74.0%
東海	250 人	227 人	90.8%	全国	2,050 人	1,831 人	89.3%

（参考）　調査客体数及び対象地域の推移

調査開始（平成 12 年１月）以降の調査客体数及び対象地域の推移は以下のとおり。

○　平成 12 年１月調査は 500 人（北海道、東北、東海、近畿、九州）
○　平成 12 年２～９月調査は 600 人（北海道、東北、関東、東海、近畿、九州）
○　平成 12 年 10 月～平成 13 年７月調査は 1,500 人（全国 11 地域）
○　平成 13 年８月調査以降は 2,050 人（全国 11 地域）
○　平成 29 年 10 月調査以降は 2,050 人（全国 12 地域）

利用上の注意

１．分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
２．表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

ＤＩの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する５段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて、ＤＩを算出している。

評価	良く なっている 良くなる （良い）	やや良く なっている やや良くなる （やや良い）	変わらない 変わらない （どちらとも いえない）	やや悪く なっている やや悪くなる （やや悪い）	悪く なっている 悪くなる （悪い）
点数	＋１	＋０．７５	＋０．５	＋０．２５	０

調　査　結　果

I．全国の動向
　１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）
　２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）
　　（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）
II．各地域の動向
　１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）
　２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）
　　（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）
III．景気判断理由の概要
（参考）景気の現状水準判断ＤＩ

（備考）

1．「III．景気判断理由の概要　全国（11 頁）は、「現状」、「先行き」ごとに区分した３分野（「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」）に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、５つの回答区分（「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」）ごとに判断が良い順に掲載した。

2．「現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移」（12 頁）は、全国の「現状判断」の回答のうち３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数の多い上位３区分（雇用関連は上位２区分）の判断理由として特に着目した点について、直近３か月分の回答者数を掲載した。

3．13～24 頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数が多かった上位３区分（雇用関連は上位２区分）を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数が多かった上位２区分（雇用関連は上位１区分）を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

Ⅰ．全国の動向

１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）

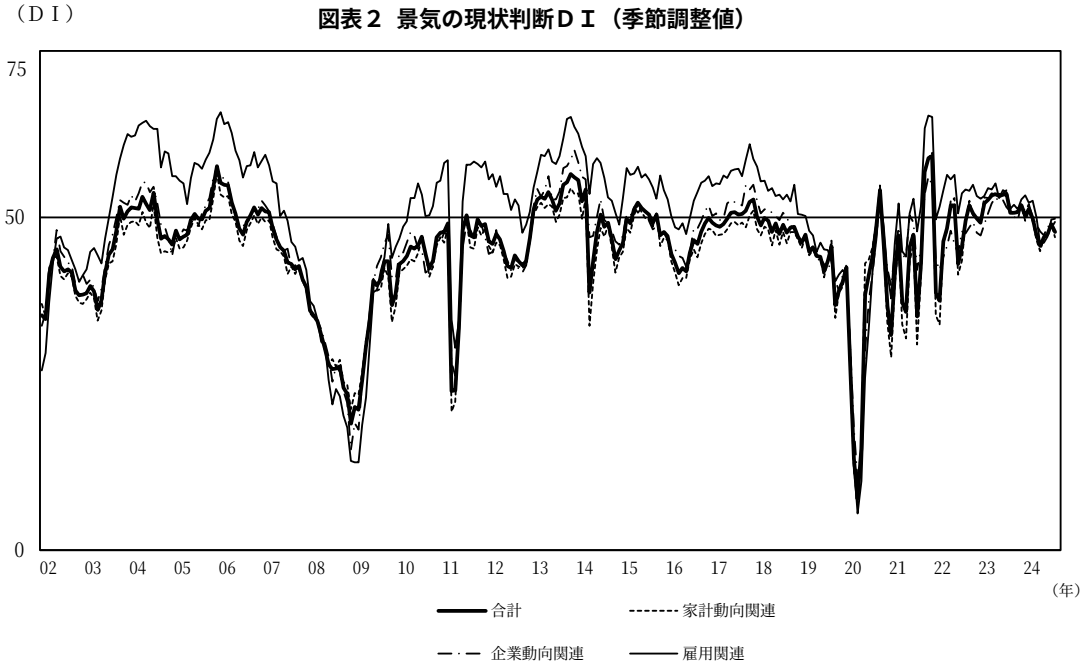
３か月前と比較しての景気の現状に対する判断ＤＩは、47.8 となった。企業動向関連、雇用関連のＤＩは上昇したものの、家計動向関連のＤＩが低下したことから、前月を 1.2 ポイント下回り、４か月ぶりの低下となった。

図表１　景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）

（ＤＩ）　　年　2024

月	4	5	6	7	8	9	(前月差)
合計	47.4	45.7	47.0	47.5	49.0	47.8	(-1.2)
家計動向関連	46.6	44.9	47.0	47.2	49.0	47.0	(-2.0)
小売関連	45.1	43.7	46.2	46.2	47.7	45.9	(-1.8)
飲食関連	47.8	44.1	46.5	44.5	50.9	51.5	(0.6)
サービス関連	49.4	47.2	49.3	50.1	51.6	48.1	(-3.5)
住宅関連	46.7	46.7	45.3	45.5	47.3	46.8	(-0.5)
企業動向関連	48.9	47.9	47.3	48.7	48.4	49.3	(0.9)
製造業	46.1	45.5	47.0	46.8	46.1	48.6	(2.5)
非製造業	51.6	50.1	47.6	50.1	50.2	50.0	(-0.2)
雇用関連	50.0	46.0	46.2	47.1	49.7	49.8	(0.1)

図表２ 景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）



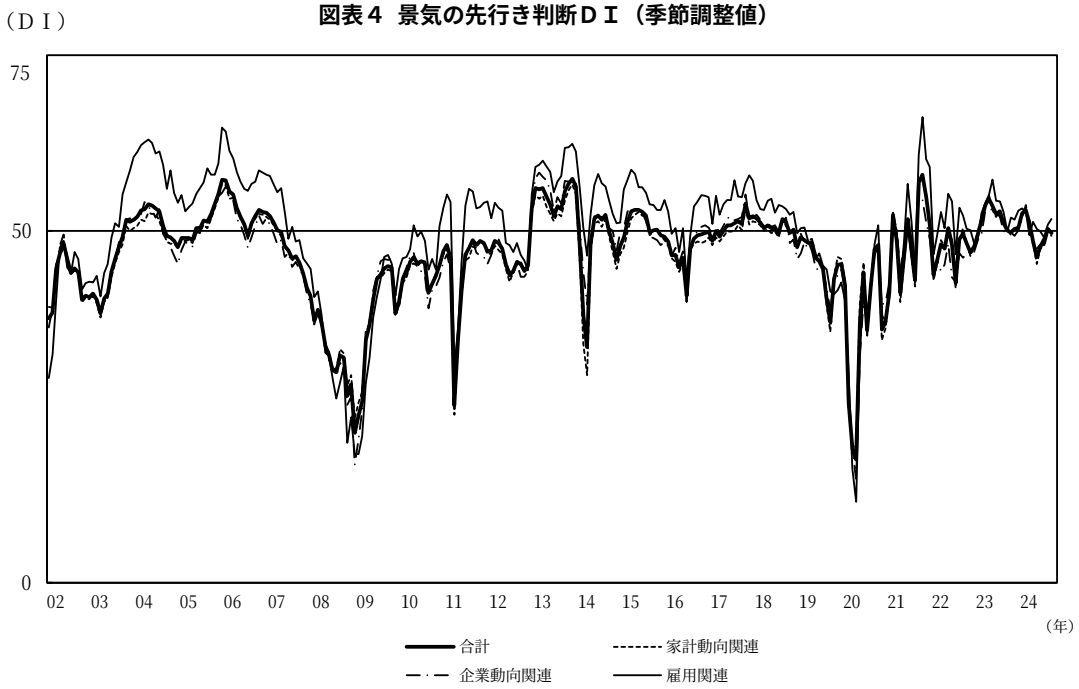
２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）

２～３か月先の景気の先行きに対する判断ＤＩは、49.7 となった。雇用関連のＤＩは上昇したものの、家計動向関連、企業動向関連のＤＩが低下したことから、前月を 0.6 ポイント下回った。

図表３　景気の先行き判断ＤＩ(季節調整値)

（ＤＩ）　年	2024						
月	4	5	6	7	8	9	(前月差)
合計	48.5	46.3	47.9	48.3	50.3	49.7	(-0.6)
家計動向関連	48.3	45.3	47.5	47.9	50.2	49.3	(-0.9)
小売関連	48.2	44.8	47.2	47.1	49.2	47.6	(-1.6)
飲食関連	48.9	44.7	47.3	51.3	52.9	51.6	(-1.3)
サービス関連	49.3	46.3	49.0	49.8	52.2	53.2	(1.0)
住宅関連	44.4	45.7	44.0	42.2	47.0	44.0	(-3.0)
企業動向関連	47.9	47.5	48.1	49.1	50.2	49.8	(-0.4)
製造業	46.8	46.0	47.8	49.2	49.6	50.1	(0.5)
非製造業	49.0	48.7	48.0	48.8	51.0	49.5	(-1.5)
雇用関連	51.3	50.3	49.9	49.1	50.9	51.7	(0.8)

図表４ 景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）



（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）

（現状判断）

図表５　景気の現状判断ＤＩ

（ＤＩ）　年　2024

月	4	5	6	7	8	9
合計	50.2	46.8	47.3	48.3	48.3	47.6
家計動向関連	49.8	46.4	47.2	48.0	48.4	46.7
小売関連	48.4	45.4	46.6	47.7	47.1	45.9
飲食関連	52.2	47.2	47.1	45.8	48.6	46.9
サービス関連	52.6	48.5	48.6	49.4	51.3	48.0
住宅関連	47.9	45.9	46.2	45.8	46.2	47.6
企業動向関連	50.5	48.0	47.7	49.6	48.0	49.6
製造業	48.0	45.5	46.3	47.5	46.5	49.6
非製造業	52.9	50.1	48.7	51.1	49.2	49.8
雇用関連	51.6	47.3	47.8	47.5	48.9	49.2

図表６　構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	ＤＩ
2024	7	2.7%	17.8%	54.0%	20.9%	4.6%	48.3
	8	2.5%	18.2%	54.8%	19.3%	5.2%	48.3
	9	1.6%	17.0%	56.0%	20.9%	4.5%	47.6

（先行き判断）

図表７　景気の先行き判断ＤＩ

（ＤＩ）　年　2024

月	4	5	6	7	8	9
合計	49.3	47.7	49.2	48.6	49.2	49.2
家計動向関連	49.3	47.2	49.1	48.0	48.7	48.8
小売関連	48.3	46.8	48.4	46.7	47.7	47.1
飲食関連	50.8	46.7	49.4	50.3	49.4	51.1
サービス関連	51.8	48.5	51.4	51.1	51.1	52.8
住宅関連	45.0	46.2	44.4	42.3	46.5	43.6
企業動向関連	48.1	48.1	49.4	50.4	50.4	49.8
製造業	45.9	46.5	49.4	51.0	51.0	51.0
非製造業	50.0	49.3	49.2	49.6	50.1	48.8
雇用関連	52.4	50.4	49.6	48.6	50.0	51.0

図表８　構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	ＤＩ
2024	7	2.2%	17.3%	57.6%	18.3%	4.6%	48.6
	8	1.8%	19.3%	56.4%	19.0%	3.5%	49.2
	9	1.5%	20.2%	55.9%	18.4%	3.9%	49.2

II．各地域の動向

１．景気の現状判断ＤＩ（季節調整値）

前月と比較しての現状判断ＤＩ（各分野計）は、全国 12 地域中、６地域で上昇、６地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは北関東（3.4 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは沖縄（7.2 ポイント低下）であった。

図表９　景気の現状判断ＤＩ（各分野計）（季節調整値）

（ＤＩ）　年　2024

月	4	5	6	7	8	9	(前月差)
全国	47.4	45.7	47.0	47.5	49.0	47.8	(-1.2)
北海道	46.6	44.5	42.5	46.7	45.8	47.8	(2.0)
東北	44.7	42.7	45.8	44.2	45.8	46.0	(0.2)
関東	47.1	45.1	46.7	46.9	48.3	50.3	(2.0)
北関東	43.7	41.4	43.2	43.4	46.4	49.8	(3.4)
南関東	48.4	46.4	47.8	48.1	49.0	50.4	(1.4)
東京都	53.7	50.4	53.7	51.2	51.2	51.7	(0.5)
甲信越	48.4	44.0	45.8	42.9	51.3	46.5	(-4.8)
東海	44.3	45.5	46.4	47.0	47.7	46.6	(-1.1)
北陸	53.5	45.5	50.5	46.2	48.6	48.7	(0.1)
近畿	48.1	45.7	47.6	47.7	47.4	46.7	(-0.7)
中国	46.3	44.7	45.3	48.0	51.8	49.2	(-2.6)
四国	45.1	43.0	43.0	50.7	47.2	49.3	(2.1)
九州	49.5	48.4	47.0	48.9	50.3	49.6	(-0.7)
沖縄	55.0	52.0	53.4	57.7	57.8	50.6	(-7.2)

２．景気の先行き判断ＤＩ（季節調整値）

前月と比較しての先行き判断ＤＩ（各分野計）は、全国 12 地域中、３地域で上昇、９地域で低下であった。最も上昇幅が大きかったのは東北（3.7 ポイント上昇）で、最も低下幅が大きかったのは北海道（5.0 ポイント低下）であった。

図表 10　景気の先行き判断ＤＩ（各分野計）（季節調整値）

（ＤＩ）　年　2024

月	4	5	6	7	8	9	(前月差)
全国	48.5	46.3	47.9	48.3	50.3	49.7	(-0.6)
北海道	47.2	43.8	43.2	47.0	50.1	45.1	(-5.0)
東北	46.8	46.5	49.1	46.2	45.5	49.2	(3.7)
関東	47.9	46.3	47.5	48.4	50.8	50.1	(-0.7)
北関東	45.4	44.7	45.3	44.8	50.2	50.0	(-0.2)
南関東	48.9	46.9	48.3	49.8	51.0	50.1	(-0.9)
東京都	52.1	49.3	51.1	51.1	51.8	52.2	(0.4)
甲信越	46.4	49.5	47.7	49.0	49.4	50.1	(0.7)
東海	48.6	44.0	47.1	46.8	48.8	47.9	(-0.9)
北陸	49.1	47.5	50.9	51.3	52.0	48.7	(-3.3)
近畿	47.5	45.1	47.6	48.5	49.7	49.3	(-0.4)
中国	45.8	46.0	48.5	49.1	51.4	50.3	(-1.1)
四国	45.4	42.7	43.4	48.9	51.1	53.4	(2.3)
九州	50.1	46.6	51.4	50.4	54.2	52.4	(-1.8)
沖縄	55.5	53.3	60.9	58.1	60.3	56.5	(-3.8)

（参考）景気の現状判断ＤＩ・先行き判断ＤＩ（原数値）

（現状判断）

図表 11　景気の現状判断ＤＩ（各分野計）（原数値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
全国	50.2	46.8	47.3	48.3	48.3	47.6
北海道	49.3	45.1	45.3	48.7	47.1	46.8
東北	48.3	44.0	47.4	45.2	45.8	44.9
関東	50.1	47.4	47.8	48.0	48.0	49.9
北関東	47.6	44.4	44.4	45.3	45.4	47.8
南関東	51.1	48.5	49.0	49.0	49.0	50.7
東京都	55.4	52.4	53.8	52.4	51.4	52.5
甲信越	50.5	46.7	47.0	44.7	51.4	46.5
東海	47.7	47.2	47.1	48.2	47.9	45.2
北陸	55.4	47.1	50.3	48.5	50.6	48.3
近畿	51.7	47.4	48.3	49.5	47.6	45.8
中国	48.9	46.2	46.3	48.5	50.9	48.5
四国	48.9	45.2	45.8	50.0	47.4	47.2
九州	51.5	48.2	45.8	48.2	47.6	49.3
沖縄	55.8	52.6	51.9	57.7	56.6	50.0

（先行き判断）

図表 12　景気の先行き判断ＤＩ（各分野計）（原数値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
全国	49.3	47.7	49.2	48.6	49.2	49.2
北海道	49.8	45.5	46.3	48.2	48.2	43.0
東北	48.1	47.9	50.1	46.7	45.1	48.0
関東	49.6	48.2	48.7	48.6	50.1	49.3
北関東	48.9	46.2	47.7	45.3	48.5	48.4
南関東	49.8	48.9	49.1	49.8	50.7	49.6
東京都	53.0	51.8	52.1	51.7	51.4	51.6
甲信越	47.8	51.4	48.5	48.3	47.4	50.0
東海	49.6	46.5	48.2	45.8	46.9	47.0
北陸	50.6	50.3	52.0	50.6	50.6	48.0
近畿	49.2	46.8	48.9	48.6	48.4	49.0
中国	48.0	47.8	48.9	48.8	49.8	50.0
四国	47.8	44.6	46.1	48.6	48.9	53.4
九州	50.4	48.2	51.4	50.8	53.7	53.7
沖縄	55.8	53.3	60.0	57.7	58.6	54.7

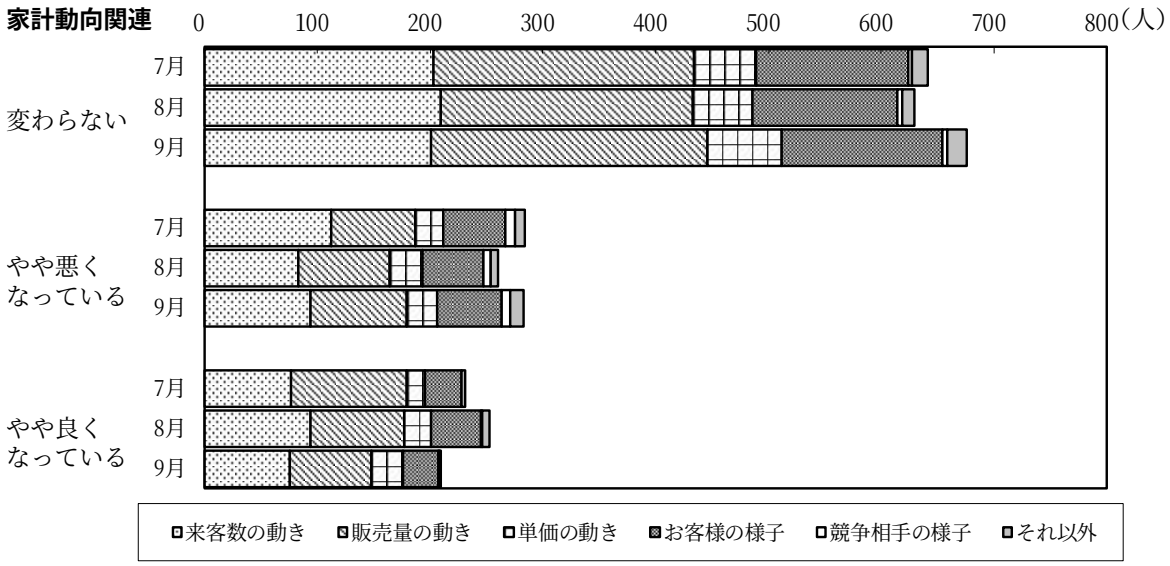
Ⅲ．景気判断理由の概要

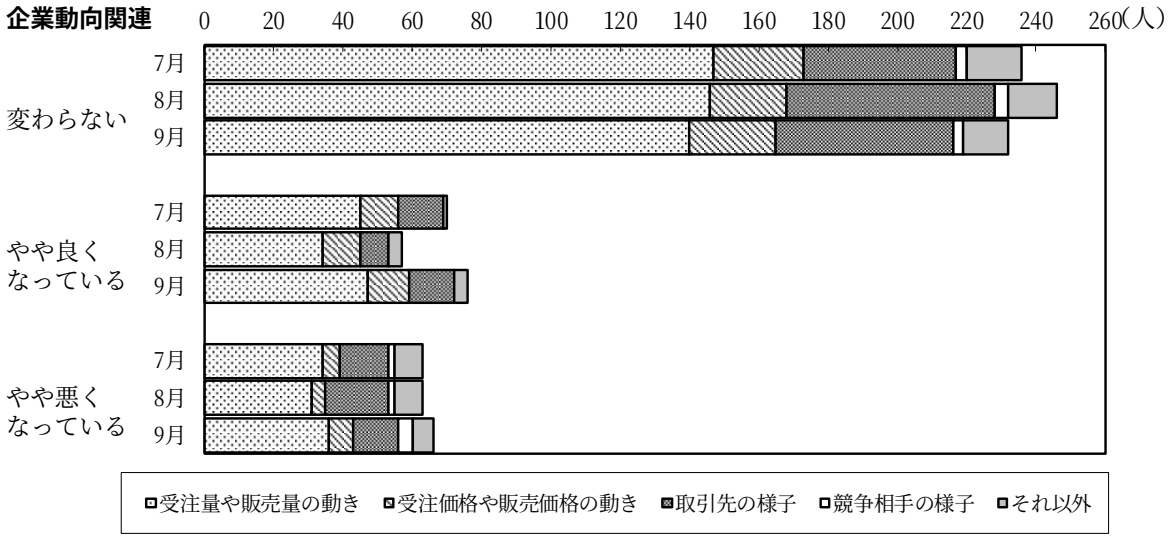
全国

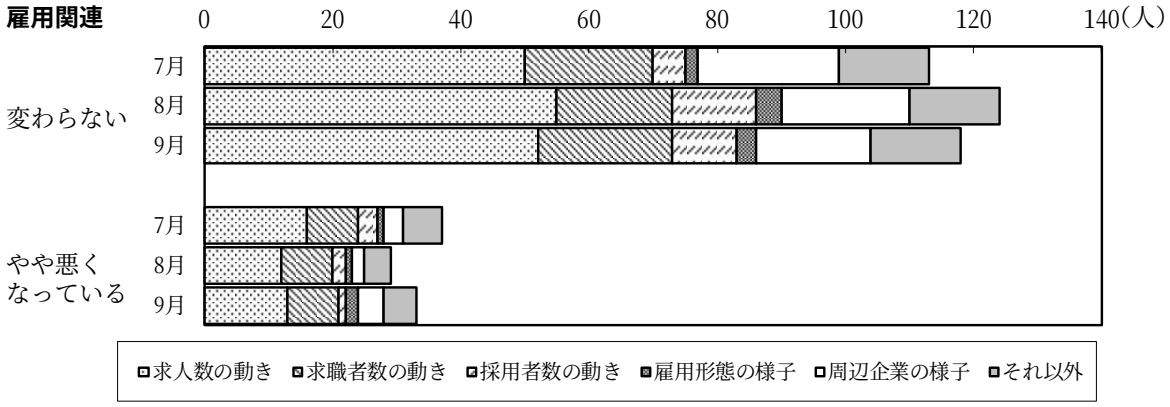
（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計動向関連	○	・商品単価が上がっているなか、来客数は 100%前後を維持しており、単価が上がった分だけ売上にしっかり跳ね返ってきている（南関東＝コンビニ）。 ・国内観光客が好調をキープしていることもあって、８月以降、来客数が高止まりしている。連休中の入込も好調に推移した。インバウンド需要が増加していることもプラスである（北海道＝高級レストラン）。
		▲	・前月は地震や台風といった災害への準備として、食品を中心に大きく売上が伸びた。今月は動きがやや落ち着いたことから、再び買い控えがみられ、販売点数も伸び悩んでいる（近畿＝スーパー）。 ・気温の高い日が続いており、秋物商材の売上が振るわない。物価高騰による節約志向の高まりもみられる（東北＝衣料品専門店）。
	企業動向関連	○	・商品の販売価格の改正と賃上げが共に進んでいる（中国＝繊維工業）。
		□	・契約後の建設資材価格の上昇や、納期の不安定化が続いている。また、技能労務者の不足もあり、厳しい状況に変化はない（近畿＝建設業）。
	雇用関連	□	・企業の求人数は微増傾向であるが、既出の求人数が充足しないまま、新規求人数が積み上がっている。求職者数は一定数いるものの、マッチングが難しく、充足できていない企業が増加している（四国＝求人情報誌）。
先行き	家計動向関連	○	・酷暑から若干涼しくなることで、生活必需品の購入で外出するようになり、現状よりもやや良くなると考えている（九州＝商店街）。 ・賃金が上昇するなど、物価の上昇を吸収するだけの環境がある（近畿＝スーパー）。
		□	・10 月からの商品値上げにより消費の鈍化が見込まれ、来客数の回復はますます望めない（四国＝コンビニ）。
		▲	・米の値段が３割から４割ほど上がっており、主食がこれほど値上がりすると、なお一層財布のひもは固くなる。この状況では購買意欲が上がるはずもなく、社会のムードも余り良くない（東海＝商店街）。
	企業動向関連	○	・ＡＩ関連製品の受注拡大が見込まれ、今後徐々に我々の景気に直接的な影響を与えることになると予想している（南関東＝電気機械器具製造業）。
		▲	・この頃は商材の動きが鈍っている。継続した値上げが響いているのではないか。この先がやや不安である（北関東＝窯業・土石製品製造業）。
	雇用関連	○	・製造業については受注は順調で、求人募集をしている。若年者を雇用、育成したいが、若年者の応募者が少ないという話をよく聞く（南関東＝職業安定所）。

図表13　現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移





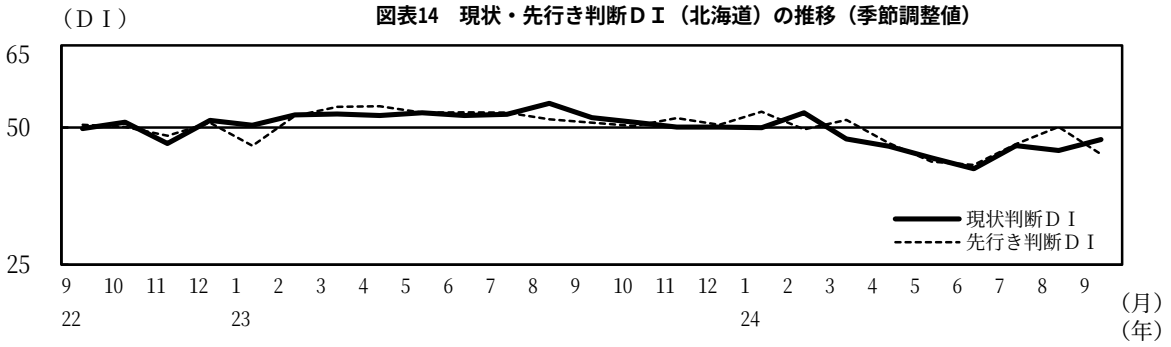


１．北海道

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・新米が出回るまで米不足が続いていたため、納品された米がすぐに売れるなど、一時的には売上や来客数の増加がみられた。ただし、客の生活防衛意識が強まっている状況は変わっていない（コンビニ）。
		▲	・セール開催月であったが、来客数が見込みほど伸びなかった。また、季節商材について、需要の生じる時期が年々遅くなる傾向もみられる（その他専門店［造花］）。
		○	・国内観光客が好調をキープしていることもあって、８月以降、来客数が高止まりしている。連休中の入込も好調に推移した。インバウンド需要が増加していることもプラスである（高級レストラン）。
	企業動向関連	□	・発注量は多いものの、設計や施工の人手不足で受注できないケースが増えており、発注量の調整が行われている。忙しい状況ではあるが、作業の手配など、今までにない作業が増えたためであり、景気が上向いているわけではない（建設業）。
		○ ▲	・国内の建設投資は、公共工事も民間工事も堅調である。また、価格の適正化が徐々に進んでいることもプラスである（その他サービス業［建設機械リース］）。 ・広告予算の削減、事業の見直しにより、取扱量が減少しており、景気はやや悪くなっている（広告代理店）。
	雇用関連	□	・説明会への参加企業は増えているものの、参加者数にはそれほど変化がみられない（学校［大学］）。
		▲	－
	その他の特徴コメント		◎：来客数が例年を大きく上回る状況が続いている。特にインバウンドの個人客と若者の小グループ客による利用が増えている（観光名所）。 □：ここ最近、出荷台数に大きな変化がないことから、景気は変わっていない。新型車の発表も遅れており、需要を刺激する材料が見当たらない（乗用車販売店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・物価の上昇は今後も続くとみられるため、必要なときに必要な物を買うという客の買物の仕方は変わらない（衣料品専門店）。
		▲	・10 月も食料品の値上げが行われるため、客の低価格志向が強まっている。そのため、今後の景気はやや悪くなる（スーパー）。
	企業動向関連	□	・ベース商材の動きは今後もそれほど変わらないとみられるものの、案件の引き合いが増えているため、今後への期待感はある。ただし、再開発などの話題が出ている一方で、工事の遅延、延期、縮小などの話題を聞くことも多い。実際に案件が動き出していない状況にあるため、不安を感じる面もある（その他非製造業［鋼材卸売］）。
		○ ▲	・トレーラー輸送の動きをみると、秋以降の農産物関連製品が前年よりも増えると見込まれるほか、紙・パルプや本州発の雑貨にも多少動きが出始めている。鉄道コンテナからの振替がみられることもプラスである。本州向けの生乳については、もうひと伸び欲しいところである（輸送業）。 ・建築業界において、資材の高騰や人手不足が続いている。新築が思うように進まないとの話も聞こえてくることから、不動産登記にも少なからず影響が出てくることになる（司法書士）。
	雇用関連	□	・新規求職申込件数及び新規求人数が減少している。ただし、求人数の減少が景気の悪化に直結しているわけではないため、今後も景気は変わらない（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：秋を迎えて快晴が続いていること、予想以上の賃上げがみられていること、インバウンドが増加していること、東南アジアの経済が好調なことなど、観光地としては良い材料が多いことから、今後の景気はやや良くなる（一般小売店［土産］）。 □：今年に入り、売上が底堅い動きを維持していることから、今後しばらくは同様の状況が続くことになる（一般小売店［酒］）。

図表14　現状・先行き判断ＤＩ（北海道）の推移（季節調整値）

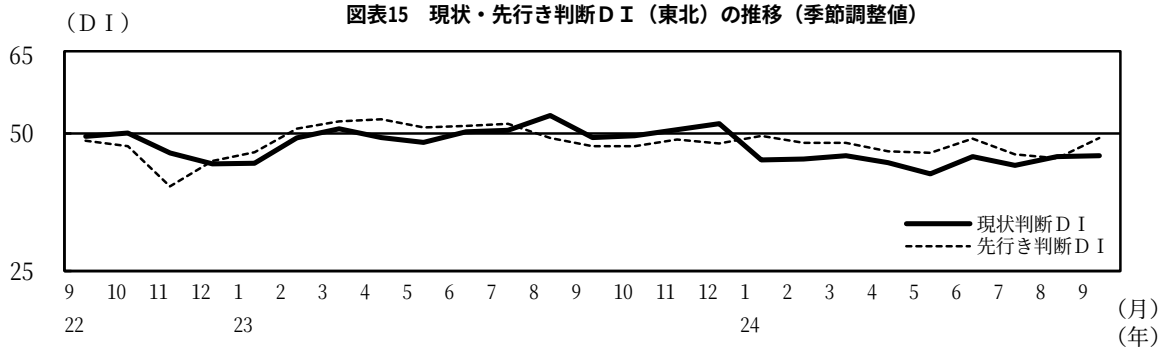


２．東北

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・残暑が厳しく、冷たい物がよく売れている。例年ならば９月に売れ始めるホット商材は全く売れず、トータルの売上は前年を少し下回っている（コンビニ）。
		▲	・気温の高い日が続いており、秋物商材の売上が振るわない。物価高騰による節約志向の高まりもみられる（衣料品専門店）。
		○	・来客数がそこそこあり、高単価のものがよく売れている（一般レストラン）。
	企業動向関連	□	・農業団体の米の買取価格が発表になり、例年と比べてかなり高くなっているが、依然として生産コストの上昇は続いている。また、異常気象による長雨により米の収穫が遅れている（農林水産業）。
		○	・修学旅行を含む団体客、インバウンド等により、飲食店、物販共に好調に推移している。一方で、対応するスタッフの確保に苦労している（食料品製造業）。
		▲	・食品の値上げが続いており、販売量は前年をやや下回っている（その他非製造業［飲食料品卸売業］）。
	雇用関連	□	・求職者の動きは活発だが、採用企業側の採用要件として経験者を希望する傾向が続いている（人材派遣会社）。
		▲	・新規求人数、有効求人数共に減少している（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		□：コロナ禍明け以降は宿泊申込みから宿泊までの日数が長くなっている。インバウンド需要も徐々に増えつつあり、雪山観光地の冬季インバウンド申込みが活発化している（旅行代理店）。 ▲：上旬から中旬にかけて残暑が厳しく、夏物のセール品しか動いていない。その後に肌寒くなり秋物が少し動いたが、残暑が戻ったため衣料品の動きがピタリと止まっている（一般小売店［雑貨］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・各種商品の値上げに加えて、冬になると灯油などの光熱費の負担が増えるため、財布のひもは固くなるとみている（その他専門店［靴］）。
		▲	・この先の商品の値上げや景気不安を懸念して、購買頻度が下がると予想している（スーパー）。
	企業動向関連	□	・物価高騰に伴い設備に掛ける費用を抑える企業が増えているため、通信設備などの受注は厳しい状況が続く見込みである（通信業）。
		○	・業種によって差はあるが、全体的に仕事量は増えつつある。このまま状況が良くなることを願っている（一般機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・特定の業種では人手不足感が継続しており、求人活動が活発だが、原材料や燃料費の高騰により、休業などの雇用調整を行う企業も増加傾向にある。この状況は続くとみている（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：秋の行楽シーズンの先行予約は好調で、特にインバウンドが好調である（都市型ホテル）。 □：新米が出回り始め米不足は解消されたが、米の価格が前年よりも大幅に上昇し消費者からは戸惑う声を聞く。食生活の基盤となる米の価格高騰の影響で、今後更に消費者の買い控えが進むとみている（一般小売店［酒］）。

図表15　現状・先行き判断ＤＩ（東北）の推移（季節調整値）

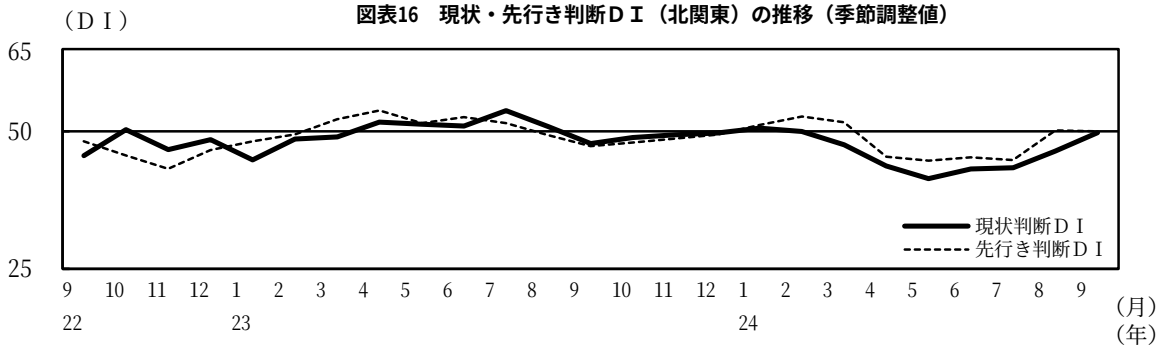


３．北関東

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・厳しい残暑の日が多く、例年より来客数が少ない。また、秋物商材の動きが非常に悪い（衣料品専門店）。
		▲	・必要な物以外は買わないという風潮が、強く出ている。買うにしても高いと言われてしまう状況にある。物価高の影響もある（一般小売店［家電］）。
		○	・海外旅行を含め、客が旅行先の視野を広げてきている（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・回復を期待していたロボット関連の仕事も低迷が続き、仕事量が全体的に少ない状況が続いている（一般機械器具製造業）。
		▲	・客からの受注量が下がっており、大口の案件がない（化学工業）。
		○ ✕	・受注、販売価格共に、価格転嫁が進んでいる様子が見受けられる（金融業）。 ・公共工事主体で売上の 95%を占める建設業である。公共工事は順調で大変有り難い。今期の公共工事受注額は前年比では５%、前々年比は 21%減少で、決算が心配である（建設業）。
	雇用関連	□	・新規求人数が前年同月比で増減を繰り返している（職業安定所）。
		▲	・派遣の求職者が減っている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		○：９月は大型音楽フェスティバルやイベントがあったため、来客数が増えている。開催中の５日間は特に客が多かったので、やや良くなっている（コンビニ）。 □：夏の暑さのせいで、野菜は全体的にかなり高騰している。９月に入っても特に、トマト系は、かなりの高値になっている（一般小売店［青果］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・金利上昇による特需があるかとみていたが、インパクトは小さく動きは少ない。金利も急激には変化の気配がないため、変わらない（住宅販売会社）。
		○	・先の予約や問合せが若干増えてきているため、年末に向けて活発に動くのではないかと予想している（一般レストラン［居酒屋］）。
	企業動向関連	□	・主要取引先の生産が安定していないこともあり、当社の生産も計画どおりに進まず、減産傾向が続いている。いまだ見通しが立たない状況にある（輸送用機械器具製造業）。
		▲ ✕	・この頃は商材の動きが鈍っている。継続した値上げが響いているのではないか。この先がやや不安である（窯業・土石製品製造業）。 ・中国の経済悪化が、悪くなっている１番の原因である。家電も景気が悪い（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	○	・今後の政局の動向次第で大きく影響を受けると考えるが、新たな方向へ向かうため、やや良くなるのではないか（学校［専門学校］）。
	その他の特徴コメント		◎：宿泊部門はイベント関連で予約状況も良く、料飲部門も新型コロナウイルス感染症発生前を超える予約状況になっている（都市型ホテル）。 □：トップシーズンになるため、コンペ予約も回復してきている。予約状況は前年並みだが、パーティーや賞品購入の減少が懸念される（ゴルフ場）。

図表16　現状・先行き判断ＤＩ（北関東）の推移（季節調整値）

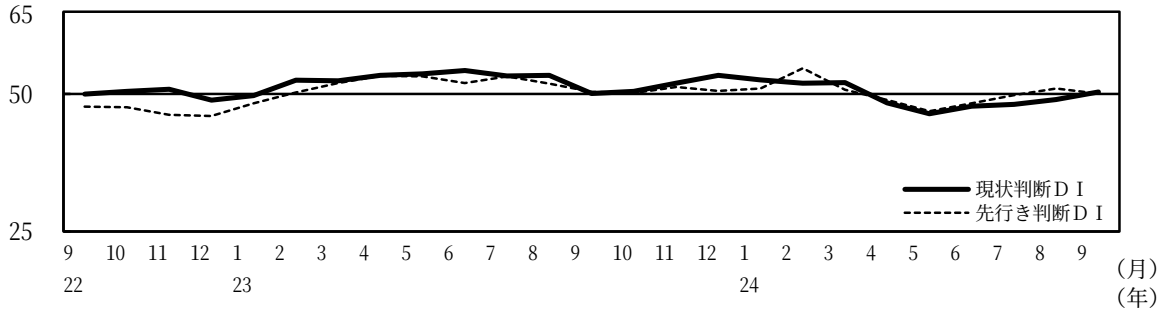


４．南関東

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・インバウンドや高額品は引き続き好調に推移している。国内客の状況にも大きな変化はない。残暑が厳しいことが影響しているのか、来客数の伸びが若干縮小していることが気掛かりではある（百貨店）。
		○	・商品単価が上がっているなか、来客数は100％前後を維持しており、単価が上がった分だけ売上にしっかり跳ね返ってきている（コンビニ）。
		▲	・昼間の利用が少し減っている。今月は３連休が２週続き、家族サービスで外出したり、米を始めとして全ての物が値上がりしているため、タクシーの利用を控えているようである（タクシー運転手）。
	企業動向関連	□	・繁忙期となり、物量は少しずつ増えている。ただし、燃料価格の高騰が続いており、収益に影響が出ている（輸送業）。
		○	・自動車メーカーは、台風による工場稼働停止を除けばほぼ予想どおりの生産を継続しており、下請企業にも順調な発注がきている（輸送用機械器具製造業）。
		▲	・用紙やインク等資材の再度の値上がりがあり、価格競争で苦戦を強いられている（出版・印刷・同関連産業）。
	雇用関連	□	・派遣依頼は前年を上回る受注数で堅調だが、人材紹介の受注が伸び悩んでおり、前年をやや下回っている（人材派遣会社）。
		○	・当社及び周辺企業において、中途採用を増やすという話をよく耳にする。人手が足りない部門が多い（求人情報誌製作会社）。
		▲	・特に小規模企業からの人材依頼が減っている気がする。周辺企業においても、新規採用を諦め、受注量を抑制して対応している様子がうかがえる（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		□：９月も気温が高いため秋物衣料への移行が遅く、夏物の残りを販売している状態である（衣料品専門店）。 □：連休ということで、宿泊及びレストランについては家族連れを中心に連日高稼働となり、猛暑のためかインドアプールの利用も好調に推移している。一方で、婚礼宴会についてはオフシーズンということもあって販売量が伸び悩み、前年を割り込む結果となっている（都市型ホテル）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・法人宴会を中心に繁忙期を迎えるに当たり、来客数の大きな改善は期待できないため、品質の良い物を適正価格で提供しながら、少しでも単価上昇を図れるように、飲料等も含め推奨販売を強化するよう指導している（高級レストラン）。
		▲	・米の大幅値上げなどがあり、可処分所得が増えないことには、ますます食品の買い控えが進む。食品スーパーの景気には期待できない（スーパー）。
	企業動向関連	□	・この先、テナントの入退去の動きはないため、景況感は変わらないが、資材等の価格高騰や人手不足により、メンテナンス費用が上昇傾向になっていることは気になる（不動産業）。
		○	・ＡＩ関連製品の受注拡大が見込まれ、今後徐々に我々の景気に直接的な影響を与えることになると予想している（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・求人数は今後もおおむね横ばいと推測される（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		○：製造業については受注は順調で、求人募集をしている。若年者を雇用、育成したいが、若年者の応募者が少ないという話をよく聞く（職業安定所）。 □：旅行需要は堅調であるため、見積りの機会はコロナ禍を経て平常に戻りつつある。物価高、特に宿泊費の上昇が顕著であることが懸念材料である（旅行代理店）。

図表17　現状・先行き判断ＤＩ（南関東）の推移（季節調整値）

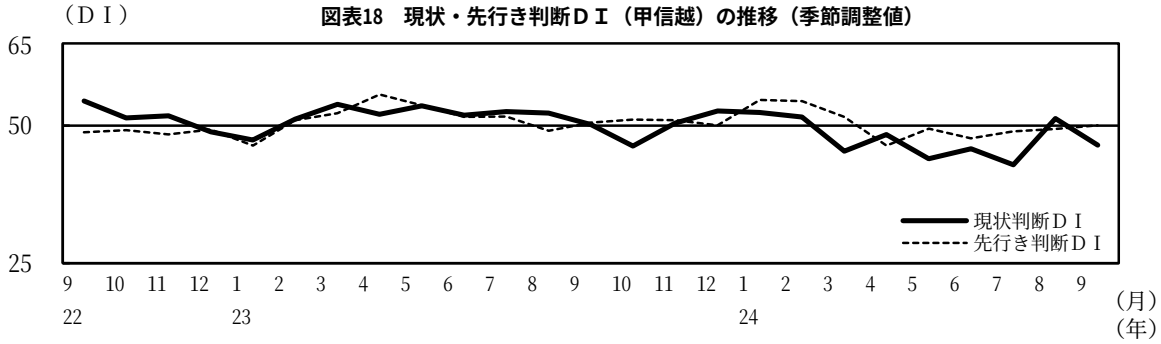


５．甲信越

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・販売量には変化がないものの、米等の値上げで客単価が上がっている分、家庭の負担は増えている（スーパー）。
		▲	・来客数は僅かだが減少傾向にある。主にデザートだが、し好品の販売が落ちている（コンビニ）。
		○	・涼を求めて来訪したという客のコメントをよく目にする。今夏は特に暑かったため、避暑に訪れる観光客が多かったのではないか（観光名所）。
	企業動向関連	□	・受注状況は順調だが、人手不足が続いている（建設業）。
		○	・店頭向け商材の受注がやや増加している（窯業・土石製品製造業）。
		✕	・仕入資材の値上げが止まらないため、現在の売価ではとても吸収できない（食料品製造業）。
	雇用関連	□	・前月同様、採用状況は変わらずに足踏み状態である（人材派遣会社）。
		○ ▲	・当所管内の有効求人倍率は、前年同月比で上昇傾向がみられる（職業安定所）。 ―
	その他の特徴コメント		▲：暑いからといって夏物一掃セールの効果があるわけではなく、秋物に手が出るわけでもない。通りのがらんとした状態は相変わらずで、店は開店休業状態が続く（商店街）。 ✕：ゲリラ豪雨などの悪天候が影響したほか、大型イベントが少なかったため、悪くなっている（遊園地）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・10月から食品、電気料金等が値上げされるため、なかなか消費が増えるとは考えづらい。ただし、富裕層については、順調に販売金額が増えている（百貨店）。
		▲	・10 月１日から多くの品目において値上げがあり、個人消費はかなり落ちるとみている。旅行に関しても多少控えめになるのではないか（都市型ホテル）。
	企業動向関連	○ □	・今月は受注の動きが良く、この状況はもうしばらく続きそうである。しかし、物価高や資材関係の値上がりが顕著で、懸念材料はある（電気機械器具製造業）。 ・新聞販売や折込出稿については、前年比微減が予想される。旅行収入は前年比 30%プラスが予想されるものの、為替の円安傾向により、海外旅行の受注は皆無に等しい（新聞販売店［広告］）。
	雇用関連	□	・求人をけん引する製造業において、現場作業者は採用に旺盛な企業が多いものの、設計や品質等の求人は、年齢、経験等の条件が厳しく、慎重な姿勢を崩していない（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴コメント		○：猛暑続きの異常気象も落ち着き、多少なりとも動きが活発になることを期待する（一般レストラン）。 □：昼間は病院や買物客の利用があるものの、それ以外の客は、タクシーの利用を控えている。涼しくなってきたが、これからどうなるか不安である（タクシー運転手）。

図表18　現状・先行き判断ＤＩ（甲信越）の推移（季節調整値）

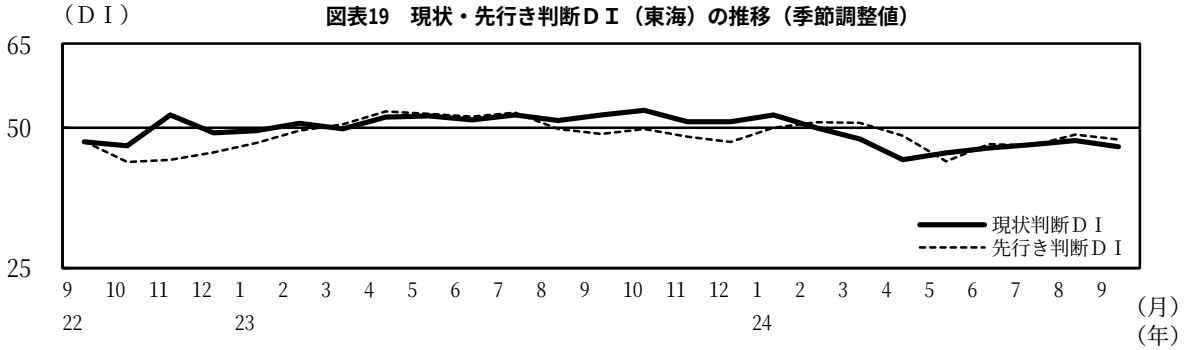


６．東海

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・目的買いがメインで高額品が変わらず稼働しており、単価も高い。インバウンドは月の後半から増加傾向にあり、中国人旅行客は国慶節を前に来日している様子である（百貨店）。
		▲	・物価が上がってきたこともあって、通常価格では売れなくなってきた。値下げするか、値段以上の価値が認められる物でないとなかなか売れない（コンビニ）。
		○	・少し涼しくなったため、タクシーの利用客は多い。特に朝晩の利用が多く、インバウンドも多い（タクシー運転手）。
	企業動向関連	□	・異常気象や猛暑も続いたため、夏のイベント企画は人出が今一つで、売上も伸びなかった（広告代理店）。
		▲	・北米の半導体向け設備投資で、ほぼ受注確実といわれていた案件が延期になったり、投資が中止になっている（一般機械器具製造業）。
		○	・例年よりも暑い日は多いが雨の日が少ないこともあり、外出や遠出をする人がやや増加傾向である。今月の売上は前年を上回っている（不動産業）。
	雇用関連	□	・企業からの求人数は増加傾向にある。前月から減少し始めた企業の退職者数及び求職者数については、引き続き減少している（職業安定所）。
		▲	・夏季のイベントが終わり、やや悪くなっている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		□：天候がかなり影響している。暑さが続くためまだスーツを着なくてもよい、シャツとスラックスのみでよいと考える人が多い。スーツも徐々に売れ出しているが、就職活動や成人式等イベント向けであり、日常使うスーツの販売は余り芳しくない。スーツよりも今月は礼服の売上がやや良かった（衣料品専門店）。 ▲：今月は比較的好天に恵まれたが残暑が続き、来客数は伸び悩んだ。３か月前と比べても少し悪い。９月になっても真夏並みの猛暑が長く続いたことが大きい（ゴルフ場）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・これから更に生活に係る物価の上昇や電気料金等のインフラに関わる支出が増える。年末に向けても消費者の視線は日常生活に必要な物に向かい、なかなか高額品に目を向ける機会は少ないと予想する。しかし、冬のボーナス支給もあり、購入検討のきっかけにもなる。この頃には景気が落ち着いているよう望みたい（乗用車販売店）。
		▲	・米の値段が３割から４割ほど上がっており、主食がこれほど値上がりすると、なお一層財布のひもは固くなる。この状況では購買意欲が上がるはずもなく、社会のムードも余り良くない（商店街）。
	企業動向関連	□	・営業部署には 10 月以降の下半期に新規案件や既存顧客からの増量出荷の話は入っていない。これからに期待するが、下半期を迎える時点での状況から、特に景気が変わる見込みはない（輸送業）。
		▲	・最近はコストダウンの要求が非常に多くなっている。値下げという形ではなく、安価に提供できる素材や、同価格でも寿命を長くできる素材の提案要求が多い。対応できなければ後々は販売価格の値下げ要求になりそうである（窯業・土石製品製造業）。
	雇用関連	□	・求人数は増加傾向にあるものの、求職者数とはギャップがあり、求職者のスキルとのミスマッチで採用につながらない状況が相変わらず続いている（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴コメント		▲：10 月もいろいろな品物の値上げが予定され、また、先日の台風の影響で九州からの農作物は出荷量が少なくなると予想している。大雨が続いたことによる葉物野菜の価格高騰も懸念している（スーパー）。 ▲：リフォーム案件は増えてきたが、物価高騰でコストがかさみ施主は決断できない。物価高が落ち着くまで、まだ厳しさは続く（その他住宅［住宅管理］）。

図表19　現状・先行き判断ＤＩ（東海）の推移（季節調整値）

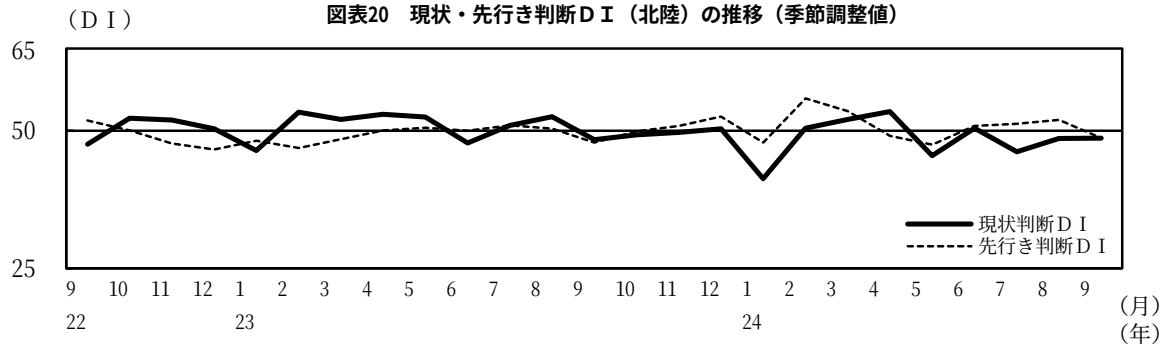


７．北陸

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・９月 21 日の能登豪雨による災害発生で再び消費マインドが低下することを懸念したが、前月までの状況と特に大きな変化はない。婦人雑貨や化粧品、婦人服、海外の特選ブランドが好調に推移し、店全体は前年実績を超えている。地震発災の１月を除けば、11 か月連続で前年実績を超えている（百貨店）。
		▲	・台風や大雨など天候不良の影響で、予約キャンセルが発生している（旅行代理店）。
		○	・能登半島地震発生後、復興が後押しとなり、新築住宅や大規模リフォームの注文が増えていたが、今回の集中豪雨の影響で今後の受注を心配している（住宅販売会社）。
	企業動向関連	□	・３か月前と受注量は変わっていない。特に増加もしていないため、当面は現状のまま推移するとみている（通信業）。
		○	・2024年問題の対応について主要荷主が理解を示し、販売価格の見直しに同意してくれたため、収益に改善傾向がみられる（輸送業）。
		▲	・2022年のピーク以降、売上が緩やかに下がり続けている（一般機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・人手不足や不人気の業界は常に募集をしているものの、人が集まらずマッチングしない状況である（民間職業紹介機関）。
		▲	・求人広告数が減少している（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		□：残暑が続いているため、エアコンの販売が例年と比べて好調である（家電量販店）。 □：天候不順の影響と客の節約志向のため、なかなか売上が上がらない（衣料品専門店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・能登豪雨の被害は受けなかったが、風評面で影響が出ないか心配している（一般レストラン）。
		▲	・能登豪雨により、行楽シーズンの旅行控えが懸念される（都市型ホテル）。
	企業動向関連	○	・北陸新幹線沿線の駅周辺では、ホテル用地、商業施設用地の買収が継続している（司法書士）。
		□	・２～３か月先の分の注文の入り具合をみると、景気は変わらないと考える（金属製品製造業）。
	雇用関連	□	・求職者数は微増傾向にあるが、求人は定例的な単発案件を除いて変化がない。依然としてアンマッチの状態が続いている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		▲：世界情勢をみても、これからもしばらくは物価上昇が収まるとは考えられない。実際来年まで文具業界は商材の値上げを決めているメーカーが多く、消費者の買い控えは続くとみている（一般小売店［事務用品］）。 ▲：受注量は相応にあると考えるが、人手が不足しており、仕事を受けたくても受けられない状況になっている。簡単には受注増加につながらない環境となっている（建設業）。

図表20　現状・先行き判断ＤＩ（北陸）の推移（季節調整値）

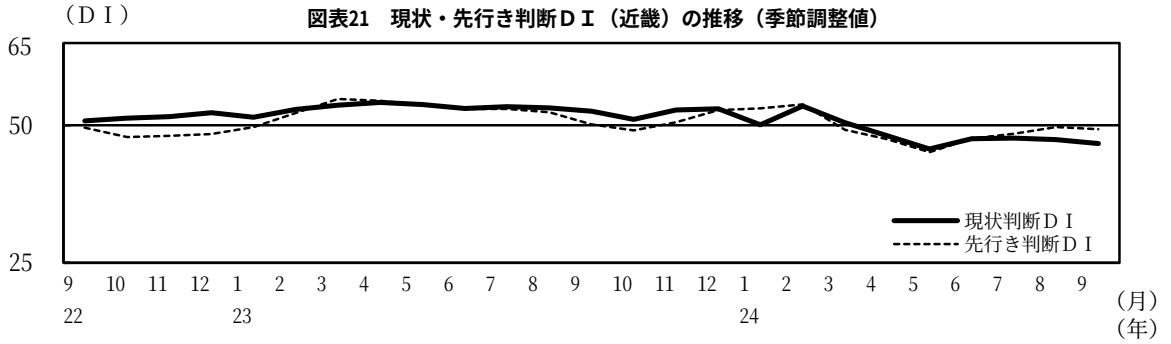


８．近畿

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・客室部門は、引き続きインバウンドが単価を押し上げており、収入を確保できている。一方、レストラン部門は物価の上昇により、地元客の客足が遠のいている（都市型ホテル）。
		▲	・前月は地震や台風といった災害への準備として、食品を中心に大きく売上が伸びた。今月は動きがやや落ち着いたことから、再び買い控えがみられ、販売点数も伸び悩んでいる（スーパー）。
		○	・売上は前年を上回る状況が続いているが、円高傾向も影響し、けん引役のインバウンド需要には一時の勢いがなくなっている（百貨店）。
	企業動向関連	□	・契約後の建設資材価格の上昇や、納期の不安定化が続いている。また、技能労務者の不足もあり、厳しい状況に変化はない（建設業）。
		○	・製品の値上げが遅れていたが、徐々に値上げが進み、利益率が上がっている。買い控えの動きもあるが、生産量も少しずつ増えている（食料品製造業）。
		▲	・加工賃や輸送費、原材料費、宿泊代、こん包材費など、全てにわたって値上げが進み、原価や経費が増えている。その一方で、販売価格は値引き要請などで現状維持であるため、利益が減っている（繊維工業）。
	雇用関連	□	・９月に入っても、採用活動を継続している企業は多い。飲食や観光関連の業界では、インバウンド需要の回復で事業を拡大しているため、求人数も緩やかな増加が続いている（学校[大学]）。
		○	・事業主都合の離職者が減少傾向にあるなか、自己都合の離職者も減少しつつある（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		□：残暑が厳しいため、季節感がずれており、秋物商材の売行きが悪い。また、今年は地元球団の優勝セール等のイベントがないため、売上は前年比でマイナスとなっている（その他小売[ショッピングセンター]）。 □：物価が上昇しているなか、悪天候の影響で葉物野菜の価格も上がっている。乾物類や魚介類も値上がりしているため、客の買い控えが増えている（一般小売店［野菜］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・今後は余り行事がないが、気候が良くなるため、人の動きも活発となり、少し販売量が増えることを期待している（一般小売店［菓子］）。
		▲	・円安にも歯止めがかかったことで、インバウンド需要がやや減少する可能性があり、来客数も少し減少することが予想される（コンビニ）。
	企業動向関連	□	・年末年始にかけてのイベントの問合せも入っており、今後も好調な推移が予想される（出版・印刷・同関連産業）。
		○	・インバウンドを狙った商品開発の案件が入ってきている。起死回生の案件とはならないが、多少の売上の増加につながるため、活気が出てきている（プラスチック製品製造業）。
	雇用関連	□	・８月の新規求職者数は前年比で減少となった。経済的な事情で就職を希望する 70 歳以上の求職者が、市場に滞留している（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：賃金が上昇するなど、物価の上昇を吸収するだけの環境がある（スーパー）。 ○：暑さも徐々に和らいで行楽シーズンとなるため、旅行意欲の高まりが期待できる。秋の味覚や温泉、紅葉のほか、ハロウィーンやクリスマスといったイベントを絡めた需要も増えると予想される（旅行代理店）。

図表21　現状・先行き判断ＤＩ（近畿）の推移（季節調整値）

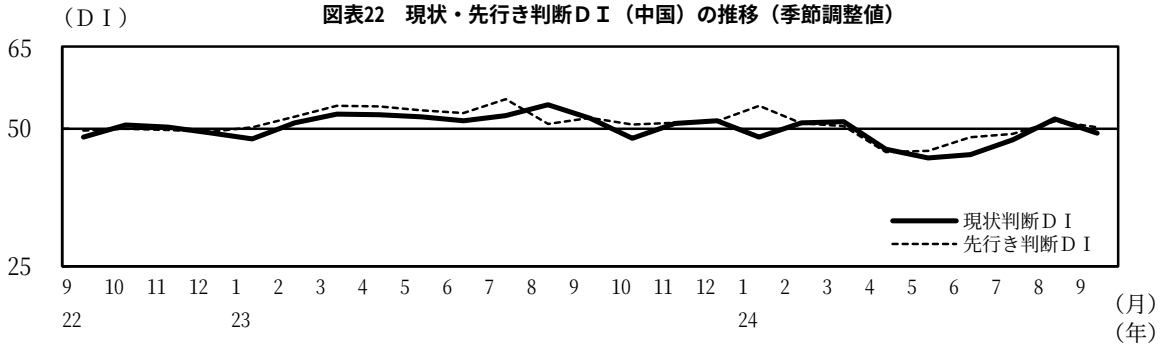


９．中国

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・米不足や一般消費財の値上がりなど家計に厳しい報道などがあるが、客の動向に大きな変動はないように感じる。祝日などのイベントには多くの客が参加しているが、ついで買いや高額商品の需要は伸びていないように感じる（その他小売［ショッピングセンター］）。
		▲	・暑いため、秋物商材が売れない（商店街）。
		○	・観光バスの数や旅行客の来店が増加し、景気が多少上昇傾向にある（その他専門店［土産物］）。
	企業動向関連	□	・インフレや働き方改革に対する市場への理解が進み、ある程度の価格転嫁が進むとともに、予定物件が順調に受注につながっている（建設業）。
		▲	・プリント基板は、半導体向けの需要が回復傾向にあるが、電子機器部品関係は、取引先の生産調整が続き、減少している。子会社においても、主要取引先の生産調整や中国経済の減速に伴う需要減少により、減収減益となっている（電気機械器具製造業）。
		○	・商品の販売価格の改正と賃上げが共に進んでいる（繊維工業）。
	雇用関連	□	・３か月前と比較し、一般企業からの求人数が余り増えていない（学校［短期大学］）。
		▲	・６月と比べて応募数が約半数、８月から閑散期が続いている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		□：来客数は増加しているが、客単価が頭打ちである。今まで販売をけん引していたデザートの販売が減少し続けている。また、単価が高めの主食品から低単価商品に客のニーズが移行しているように感じる（コンビニ）。 □：９月になっても暑い日が続いており、週末は近くの川遊びで来る人が多いため、施設の利用者は多くなっている（観光型ホテル）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・物価高が続いているが、消費者もそれに慣れてきたのか、消費活動は前年並みで推移する（家電量販店）。
		○	・これから秋の行楽シーズンを迎え、人の動きが活発になるとみられる。芸術祭などのイベントもあり、県外からの観光客に期待している（タクシー会社）。
	企業動向関連	□	・新規の見積依頼は通常の数量であり、３か月後も大きな変化はない（輸送業）。
		▲	・賃貸住宅の需要が落ち着く時期となり、景気はやや悪くなると予測する（不動産業）。
	雇用関連	□	・賃金上昇や教育など、社員への投資の影響で求人の動きが若干鈍くなっている。業種によるが、欠員補充に限られており、新たな増員求人の動きは少ない（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		○：旅行シーズンに入り、人の動きは今より良くなると考えられる（観光名所）。 □：景気が好転する見込みのない状況での容器や包装資材の値上げ、食材の価格上昇で、客の節約志向が更に強まる（一般小売店［食品］）。

図表22　現状・先行き判断ＤＩ（中国）の推移（季節調整値）

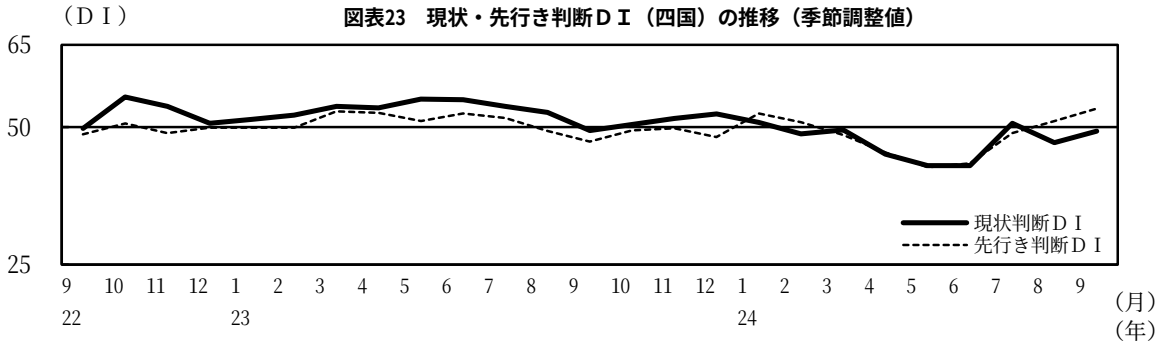


10．四国

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・売上に関しては継続している値上げの影響で増加しているが、猛暑の影響で衣料品の販売数が減少しており、総合的に横ばいの傾向である（スーパー）。
		○ ▲	・今月の２回の連休共に、かなりの数のインバウンドも含めて、観光客や外来者が多かった。イベント等も多くの人でにぎわい、それが飲食中心に売上に貢献している（商店街）。 ・９月は、８月のバーゲンセールが下火になり、徐々に初秋物が増加していく季節になる。しかし、今年の場合は非常に残暑が厳しく、ほぼ夏のような気候であったことから、単価の高い初秋物の動きがなかったとともに、夏物が大きく売れたわけでもなかったため厳しい状況であった（衣料品専門店）。
	企業動向関連	□	・売上は多少増加しているものの、経費が増加していることから、利益に変化はみられない（税理士事務所）。
		○	・９月中旬を過ぎても猛暑が続いており、引き続き受注は旺盛である。地方の小売店もおおむね好調で、全国的には悪くはない。全国の小売店からの受注内容をみていると、インバウンド需要が北海道、東北、九州などの地方都市や観光地に流れている（繊維工業）。
		▲	・青果物の卸売価格は、猛暑から多くの品目で生育が悪く、絶対量不足から高値傾向が続いてきた。ただし、小売価格は卸値に比例して上昇しきっておらず、店持ちの悪さも加わり量販店の利益率は低下傾向にある。このため、卸値も品目によっては数量が少ない割に単価が伸び悩む傾向がみられてきており、販売環境は悪化傾向にある（農林水産業）。
	雇用関連	□	・企業の求人数は微増傾向であるが、既出の求人数が充足しないまま、新規求人数が積み上がっている。求職者数は一定数いるものの、マッチングが難しく、充足できていない企業が増加している（求人情報誌）。
		○ ▲	・構造的な人手不足要因に加えて、このところのインバウンド需要で更に人手が不足しており、求人数が増加している（学校［大学］）。 ・民間で広告費が増加しているところはほとんどない（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		□：新型コロナウイルス感染症や猛暑が落ち着いてきて、来客数も例年並みに戻ってきた。物価高騰も納得して購入されるが予算は抑えたい様子である（一般小売店［生花］）。 □：９月は台風の影響で月初めの数字が悪かったが、それ以降は順調に推移している（その他小売［ショッピングセンター］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・10月からの商品値上げにより消費の鈍化が見込まれ、来客数の回復はますます望めない（コンビニ）。
		○	・９月、10月にかけて、ソウル便と台湾便が増便されるため、インバウンドの増加が見込まれる（観光遊園地）。
	企業動向関連	□	・引き続き、造船関連の受注は安定しているが、産業用機械は受注案件が少なく回復の兆しはみえていない（鉄鋼業）。
		○	・キッチンペーパーは数量を減らし、事実上の値上げを行っていく予定であり、新型コロナウイルス感染症が収束したものの、マスクの需要は増加してきている（パルプ・紙・紙加工品製造業）。
	雇用関連	□	・求職者数が急激に増えるとはみられない（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		○：地元空港直行便の本数が今後も増える方向にあり、インバウンドが国内観光客の増減の振れを補ってトータルで堅調に推移するものとみられる（観光型旅館）。 ○：年末年始のアルバイト募集の増加が予想される（求人情報誌製作会社）。

図表23　現状・先行き判断ＤＩ（四国）の推移（季節調整値）

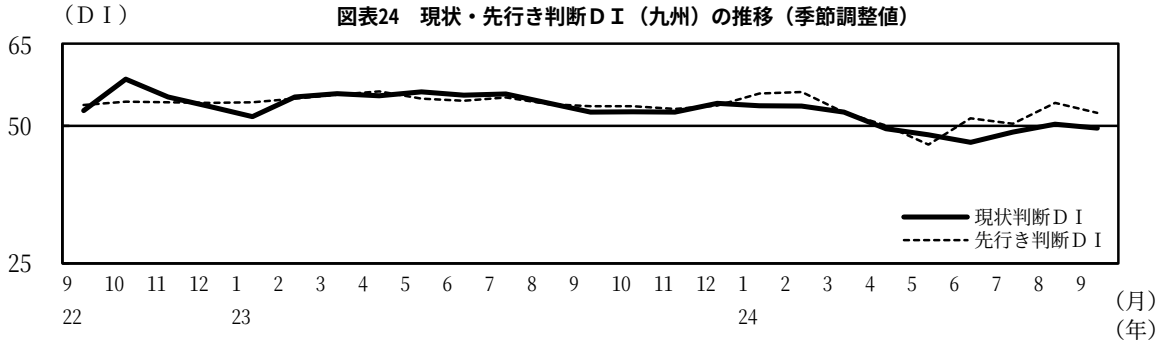


11．九州

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・売上は値上げの影響もあり前年比増で推移しているが、買上点数は前年比では減少している（スーパー）。
		○	・９月に入っても猛暑が続き、飲料やアイス等が売れ、売上自体は好調である。来客数はほぼ前年と同じであるが、客単価の伸びは大きく売上を押し上げている（コンビニ）。
		▲	・１品単価が値上がりしているため購入商品の数量が少なくなり、結果として客単価が下がっている状況である（衣料品専門店）。
	企業動向関連	□	・物価が上昇している分、物量は減少している。各荷主が見込んだほど売上はないが、景気が悪いというほどではない（輸送業）。
		▲	・日本銀行の利上げに伴い、貸出金の基準金利が上昇するため、取引先の中小企業へ案内を実施している。金利の上昇について理解と承諾はもらっているものの、金利の影響もあり、新たな資金需要は乏しい状態である（金融業）。
		○	・２～３か月前と比較すると、受注量が徐々に増加している。しばらくこの傾向は継続すると予想している（一般機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・例年、この時期になると求人が活発に動くが、前年度より動きが鈍くなっている。当県の場合はインバウンド効果はあるが、地元経済の活気がみられない（求人情報誌製作会社）。
		○	・９月以降も採用活動を継続している企業は多く、有効求人数も前年と比較して確実に増加している。売手市場が続いており学生にとっては有利であるが、企業や団体にとっては採用活動の長期化が進み、人材確保が大きな課題になっている。人手不足の状況は今後も続くことが予想され、求人の動きは今後も拡大傾向にある（学校［大学］）。
	その他の特徴コメント		○：国内旅行の売上は３か月前とほぼ同じであるが、海外旅行の売上は３か月前の約２倍に増加しており、全体的にやや良い傾向である（旅行代理店）。 □：半導体製造装置メーカー等の主要取引先から 10 月以降増産傾向と伝えられていたが、現時点ではかなり後ろにずれ込む状態になっている（電気機械器具製造業）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・物価高の影響で衣料品への消費マインドが依然として弱い。しかし、値上げの影響もあるが、食料品・飲食等の売上は好調を維持すると予想される（百貨店）。
		○	・酷暑から若干涼しくなることで、生活必需品の購入で外出するようになり、現状よりもやや良くなると考えている（商店街）。
	企業動向関連	□	・原材料価格の高騰のため価格転嫁を行ったところ、伸長はしないがそれなりに売上はあり、今後の経営は成り立っていく見通しである（食料品製造業）。
		○	・前年比では損益は回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想される（化学工業）。
	雇用関連	□	・年末の求人は順調に発生しているものの、直接雇用の求人も増加しているため、新規登録者の求職者数が減少している。これによりマッチングは苦戦すると考えている（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		○：年内はメーカーの新車生産が順調に進むと見込んでいる。ようやく人気車種の受注も取れるようになり、営業スタッフが最も喜んでいる（乗用車販売店）。 □：これから秋のゴルフシーズンに入るため、タクシー利用が増加していくのではないかと期待している（タクシー運転手）。

図表24　現状・先行き判断ＤＩ（九州）の推移（季節調整値）

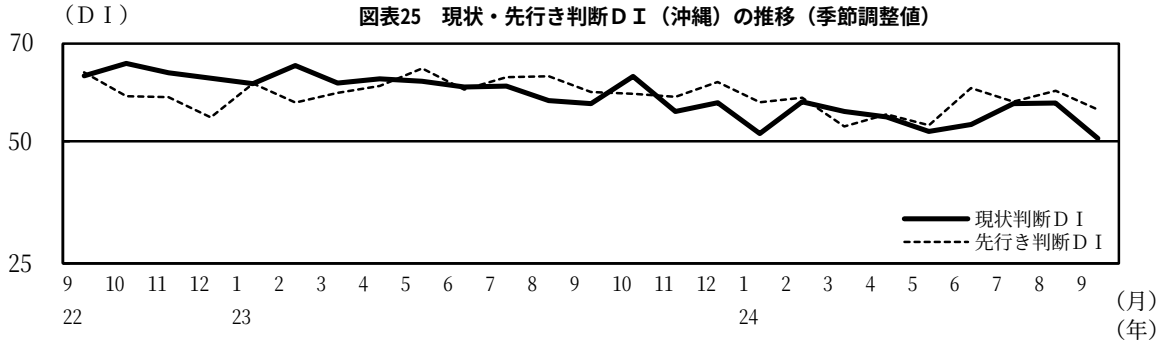


12．沖縄

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・衣料品では夏物と秋物の端境期ということもあり購買意欲の変化がみられない（百貨店）。
		▲	・今月の来客数は、３か月前と比べて落ち込んでいる。近隣に競合店が開店した店舗では、来客数が落ち込み苦戦している（スーパー）。
		○	・微増ではあるが売上が前年を上回っている。取扱数量は少ないが単価が高いことが影響している（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・国内の政治状況だけでなく世界全体の政治状況が不安定であり、生活、経済面の動向が見えない（会計事務所）。
		○	・受注状況に大きな変化はないが、見積依頼は３か月前と比較して民間工事が増加傾向にある（窯業土石業）。
		－	－
	雇用関連	□	・３か月前から求人数はほぼ横ばいである。業種や職種などにおいても全体的に大きな変化がみられない。新型コロナウイルス感染症発生前や過去２年の秋口は求人数が増加していたため、求人数増加を見込んでいたが、それもみられなかった。求人の動きが少し変化している（求人情報誌製作会社）。
		○	・前月同様、2025年卒向けの求人数は落ち着いているが、2026年卒採用に向けてのインターンシップの案内が増加している（学校［専門学校］）。
	その他の特徴コメント		▲：３か月前と比較して、直近では来客数が減少しており、台風の影響が大きく出ている。悪天候が続いており、観光客の影響が少ない地域では、地元客の動きが鈍い状況が続いている（コンビニ）。 ✕：来客数全体のなかでは、特に団体客が減少しており、周辺の同業者からも地元客が動いていないと聞いている（その他飲食店［バー］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・例年だと新しい季節の商品が売れ始めるが、季節がずれてきたのか、商品の売行きがまだ良くない。来月からの動きをみていきたい。景気が良くなっている気配はまだ見受けられない（衣料品専門店）。
		○	・少しずつ涼しくなってきたため、来客数の増加を期待している（一般レストラン）。
	企業動向関連	□	・県内企業の販売促進活動は、個人消費などの足元の景気とは異なり減速傾向にある（広告代理店）。
		○	・今後も前年比で消費が拡大する傾向は続いていくとみている（食料品製造業）。
	雇用関連	□	・新規求人数が減少し、新規求職者数は増加している。物価高の影響で、現在の賃金や年金で生活できないという声もあり、景気回復の要因となるような声が聞こえてこない（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：飲食・観光関連の客は増加しているが、通常の物販やその他の雑貨類は大変厳しい状況にある。また、現在、新型コロナウイルス感染症の影響も出てきているものの全体的には少し良くなるとみている（商店街）。 ▲：９月の販売室数が前年比 28%増加なのに対し、９月末時点での 12 月の予約室数は前年比 19%増加となっており、プラス幅が縮小している（観光型ホテル）。

図表25　現状・先行き判断ＤＩ（沖縄）の推移（季節調整値）



（参考） 景気の現状水準判断ＤＩ

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 26　景気の現状水準判断ＤＩ（季節調整値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
合計	47.1	44.9	46.5	46.6	47.8	47.9
家計動向関連	46.2	43.8	46.6	45.9	47.5	47.4
小売関連	44.6	42.6	45.6	45.2	46.1	45.4
飲食関連	46.8	45.5	46.8	45.8	47.5	47.1
サービス関連	50.1	46.2	49.1	47.5	51.0	51.6
住宅関連	42.8	42.0	43.3	44.6	44.4	45.8
企業動向関連	48.1	46.7	45.2	48.3	47.8	48.1
製造業	46.7	43.0	42.6	45.4	43.2	46.5
非製造業	49.6	49.9	47.0	50.2	51.4	49.2
雇用関連	50.8	48.8	49.3	48.5	49.9	50.8

図表27 現状水準判断ＤＩの推移（季節調整値）

図表 28　景気の現状水準判断ＤＩ（各分野計）（季節調整値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
全国	47.1	44.9	46.5	46.6	47.8	47.9
北海道	46.0	42.2	41.0	44.5	45.6	47.6
東北	45.4	42.2	45.8	43.8	46.1	45.5
関東	47.4	45.8	47.0	46.4	46.8	49.3
北関東	44.4	39.3	43.5	42.8	41.6	46.1
南関東	48.5	48.1	48.2	47.7	48.7	50.4
東京都	56.1	53.2	54.6	52.6	53.2	53.8
甲信越	45.4	41.3	44.3	42.2	46.8	44.4
東海	45.2	48.0	47.8	48.3	47.8	46.3
北陸	48.2	43.2	44.8	46.3	47.7	44.7
近畿	47.6	45.0	48.8	47.2	47.4	47.8
中国	46.0	45.5	48.0	49.1	52.8	48.3
四国	49.7	45.4	46.9	48.5	48.5	46.7
九州	50.9	46.7	46.6	47.6	49.5	49.3
沖縄	53.5	53.8	53.0	58.9	54.7	50.9

図表 29　景気の現状水準判断ＤＩ（原数値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
合計	48.8	45.8	47.1	47.5	47.5	46.8
家計動向関連	48.4	45.0	47.0	46.9	47.5	46.0
小売関連	46.8	44.1	46.1	46.1	46.2	44.4
飲食関連	49.4	46.9	47.7	47.2	46.6	45.5
サービス関連	52.4	47.1	49.4	49.0	50.9	49.3
住宅関連	43.2	41.4	44.4	44.7	43.4	45.6
企業動向関連	48.7	46.6	46.1	48.7	47.0	47.9
製造業	46.3	42.9	43.3	45.2	42.5	45.9
非製造業	51.2	49.9	48.1	51.1	50.5	49.4
雇用関連	51.4	49.6	49.4	48.8	49.2	50.1

図表 30　景気の現状水準判断ＤＩ（各分野計）（原数値）

（ＤＩ）　年	2024					
月	4	5	6	7	8	9
全国	48.8	45.8	47.1	47.5	47.5	46.8
北海道	45.9	42.0	42.5	47.1	46.6	47.0
東北	47.7	42.9	46.6	44.1	45.4	44.2
関東	49.1	46.9	47.9	47.5	46.8	48.3
北関東	45.8	41.1	44.7	45.3	42.7	44.6
南関東	50.3	49.0	49.0	48.3	48.2	49.6
東京都	57.1	54.2	54.8	53.8	53.0	53.8
甲信越	46.4	42.8	44.6	43.5	47.2	44.4
東海	47.2	47.8	47.6	49.3	47.2	45.6
北陸	49.7	44.0	44.9	46.5	48.1	44.1
近畿	49.7	45.8	48.4	47.7	46.9	46.7
中国	47.5	45.6	47.7	48.3	51.5	47.1
四国	51.4	45.2	47.2	48.6	47.7	46.3
九州	51.0	47.6	46.3	46.9	47.8	48.9
沖縄	54.5	52.6	51.9	59.0	54.6	51.4

（注）景気の現状をとらえるには、景気の方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。